

2020. 11. 1

澄んだ空、ひんやりした空気、色鮮やかな草木の実、黄金色のセイタカアワダチソウ・・・晩秋の装いが見られるようになりました。林縁に網を張り巡らす大きなジョロウグモや産卵間近のカマキリをよく目にするようになりました。秋の実りに感謝しながら、まもなく里は冬支度に入っていきます。

晩秋の里山 色とりどりの木の実・草の実



カラスウリ



ヒヨドリジョウゴ



コマユミ



ゴンズイ



ガmazumi



トキリヤマ



ノササゲ



コブシ



ヤマコウバシ



サンショウ



カントウマムシグサ



ハダカホズキ



サルトリイバラ



ムラサキシキブ



クサギ

今年最後の花？ひっそり咲いています。



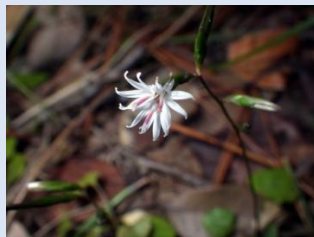
ヤクシソウ



リュウノウギク



リンドウ



キッコウハグマ

<季節メモ> 赤い実が多いのはなぜ？

秋の野山を歩くと、ガmazumi、コマユミ、サルトリイバラなどの赤い実が目につきます。どうして赤い実が多いのでしょうか。赤い実は“おいしい実がありますよ”と、鳥達にアピールしているのです。鳥は、色を見分けることができる動物です。果実は、目立つ色をしていれば鳥に発見されやすく、果肉は消化されても種子は糞と一緒に排泄され、いろいろな場所へ移動することができます。自分で動けない植物にとって、「目立つ」ことは繁殖のための重要なポイントだったんですね。赤く熟した木の実を「おいしそう！」と感じるのは、人も鳥も一緒なのかもしれません！

写真・編集：晝間

